

旅行先は鷹の異世界

オリックス・ブルーウェーブ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

福岡に旅行に来た関西人二人が、ホテルで異世界のような朝を過ごしただけ。

目次

旅行先は鷹の異世界

「……おはよう」

「……おはよう。今何時？」

「六時四十分」

「……なんかアレやな。早うに目エ覚めたな」

「昨日結構飲んだのにな」

「今日昼間どうする？どつか行きたいとことか」

「うーん……福岡ようわからんしなあ」

「てか夜風俗行く言うてたけど、場所とか決めてんの」

「決めてへん。なんか適当に今日調べたらいつか〜って」

「めっちゃ雑やん。九州の女抱きたい言うたんお前やで」

「まあええやん、後で調べるって」

「……あつそういえば昨日阪神勝った？」

「知らん。テレビつける？」

「つけよつけよ。今ちようどおは朝でやってんちやうん、野球」

「おつけー。松野打ったかな〜……………あれっ」

「どないしたん？」

「おは朝やってへん」

「嘘やん、ゴルフ？」

「……………なあ、俺ら何処に旅行来てたっけ」

「福岡やん……あつ」

「……おは朝、関西ローカルやん」

「やってるわけなかったわ」

「……なんかアレやな。朝テレビでおは朝やってないだけで違和感あるわ」

「それな。どうする？代わりに福岡のローカル番組でも観とく？」

「なんでもええよ」

『さあ！続きましては野球のコーナー！首位独走中のホークスは三位の日本ハムとの三連戦です』

「……当たり前やけどさ、福岡のローカル番組はホークスがメインやねんな」

「当たり前やろ」

「朝のローカル番組とか、おは朝しか観たことなかったからそれだけで新鮮やわ」

「まあなー。俺パリーグの試合観いひんからソフバンの選手よく知らんねんけど」

「俺もあんま知らんわ」

『三回の表、ツアアウトからバッターは四番、番長内田。……渾身のストレートを打たれ打球はスタンドへ。エース千が先制点を許します』

「うっわー、完璧なホームランやな」

「小山もあれぐらい気持ちいいの打ってくれたら最高やねんけどな」

「言うて最近はようやってるやろ。俺どっちかというとな千の方が羨ましいわ」

「千はもう今の日本を代表するピッチャーやろ」

『しかしこれで終わらないホークス。六回裏、ランナー二塁でバッターは風田！』

「あつこれ打たへんやつや」

「おは朝やったらこの煽り入ったら次に流れるのは三振の映像や」

『右中間に突き刺さるツーランホームラン！更に続くバッター、グライアスもこの一発！なんと二者連続ホームランでこの回一挙三得点です！』

「……うわ打ちよった」

「スイングスピードバグってるやろあれ」

「阪神に欲しい」

「それな」

「グライアスってポケモンに似るやろ」

「グライガーやろそれ」

「いや、ちやう。ブラックホワイトにギガイアスみたいなんおらん

「かった？」

「俺プラチナまでしかやってへんから知らんわ」

「せめてハートゴールドまではやれや」

『八回表、フオアボールでノーアウトからランナーを許しますがここで魅せたのが……海キャノン・盗塁を許しません』

「松ちゃんバズーカじゃないんやな」

「当たり前やろ」

「……なんかあれやな。朝早くからローカル番組のスポーツニュース観てるって事実は普段と変わらんのに、鼻肩球団ちやうだけでめっちゃ新鮮やわ」

「異世界来たみたいな気分なるな」

「そやねん、日本のはずやのちよつといつもと違う……みたいなそんな感じするわ」

「パリーグやから余計にな」

「……夜、風俗もええけどさ、ホークスの試合見に行かん？」

「現地チケットあるん」

「知らん」

「無かったらどうするん」

「知らん。でもなんかちよつと現地で試合見たい気分になった」

「……まあええけども」

「よっしゃ！今年の日本シリーズは阪神とホークスの試合を期待しようか！」

「阪神今四位やけどな」